

旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略【第2期】に係る数値目標等の状況について

○人口全体の状況について

◇総人口と人口比率

		令和3年(2021) 10月		令和4年(2022) 10月		令和5年(2023) 10月		令和6年(2024) 10月	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
年少人口 (0～14歳)		34,451	10.5	33,446	10.3	32,432	10.1	31,326	9.9
	前年増減	-	-	▲ 1,005	▲ 0.2	▲ 1,014	▲ 0.2	▲ 1,106	▲ 0.2
生産年齢人口 (15～64歳)		181,087	55.1	178,430	54.9	176,234	54.8	173,606	54.7
	前年増減	-	-	▲ 2,657	▲ 0.2	▲ 2,196	▲ 0.1	▲ 2,628	▲ 0.1
老年人口 (65歳以上)		113,050	34.4	113,163	34.8	112,803	35.1	112,235	35.4
	前年増減	-	-	113	0.4	▲ 360	0.3	▲ 568	0.3
合計		328,589	100	325,039	100	321,469	100	317,167	100
	前年増減	-	-	▲ 3,550	-	▲ 3,570	-	▲ 4,302	-

※R3年の合計には年齢不詳1人を含む。

◇自然増減
(各年1～12月)

	令和4年	令和5年	令和6年	R6-R4差
出生数	1,624	1,564	1,425	▲ 139
死亡数	5,084	5,204	5,282	78
増減計	▲ 3,460	▲ 3,640	▲ 3,857	▲ 217

◇社会増減
(各年1～12月)

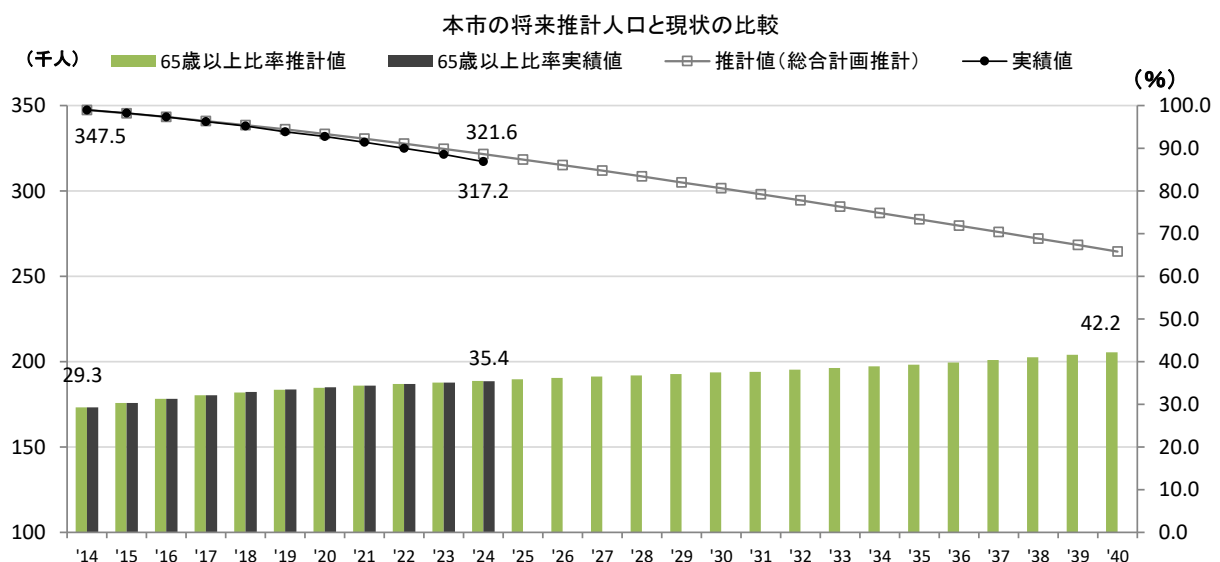
	令和4年	令和5年	令和6年	R6-R4差
転入者数	10,048	10,103	9,718	▲ 385
転出者数	10,368	10,269	10,096	▲ 173
増減計	▲ 320	▲ 166	▲ 378	▲ 212

※転出超過の主な内訳

札幌市	▲ 831	▲ 960	▲ 1,036	▲ 76
道内札幌以外	896	1,103	964	▲ 139
道外	▲ 379	▲ 253	▲ 305	▲ 52

令和6年の自然増減については、出生数の減少及び死亡数増加の傾向が続いており、自然減が進んでいる。
また、社会増減については、転出者は減少の傾向にあるものの、それ以上に転入者数が減少しており、社会減が進んでいる。

◇推計人口との比較

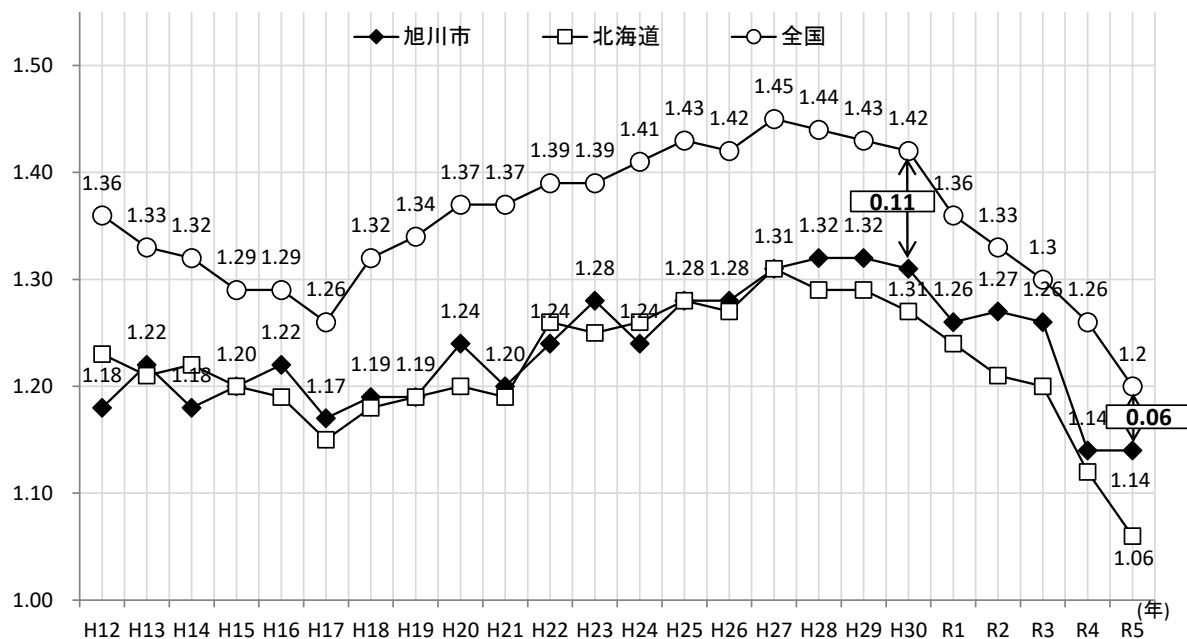


資料:旭川市(第8次総合計画, 人口ビジョン)

総合計画策定時の令和6年時点の推計値と現状を比較すると、実績値が推計値を4,415人下回る。その要因としては、社会減が平成26年の推計時より減少幅が大きいと推測される。

○基本目標1

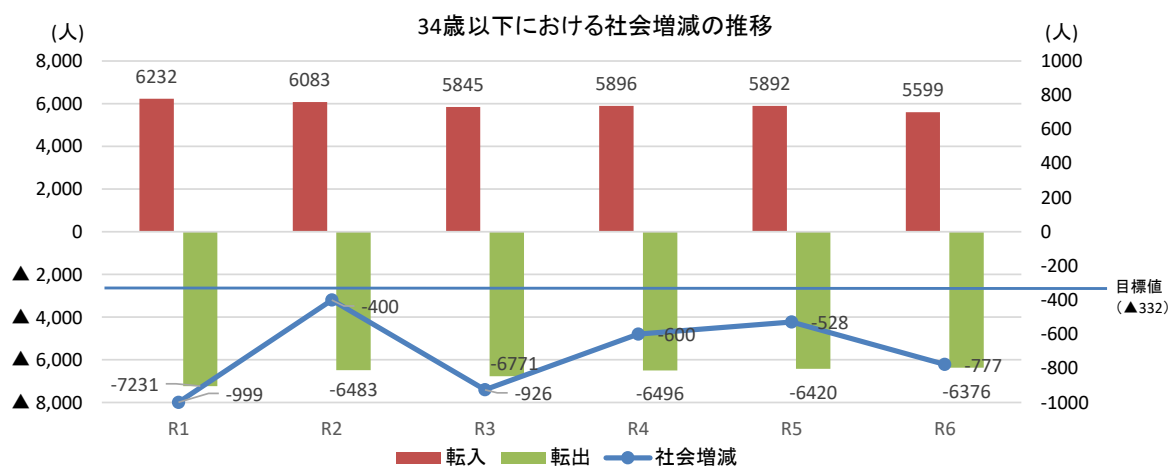
指 標	数値目標
合計特殊出生率 (H30年現在:全国1.42, 道1.27, 市1.31)	全国平均との乖離を縮小し, 全国水準まで引き上げる



令和5年の合計特殊出生率は前年と変わらず1.14となっており、3年連続で低下した全国平均(1.2)との差は0.06ポイントと前年より縮小した。H30年当初と比較すると国との乖離幅が0.05ポイントの縮小となった。

○基本目標2-1

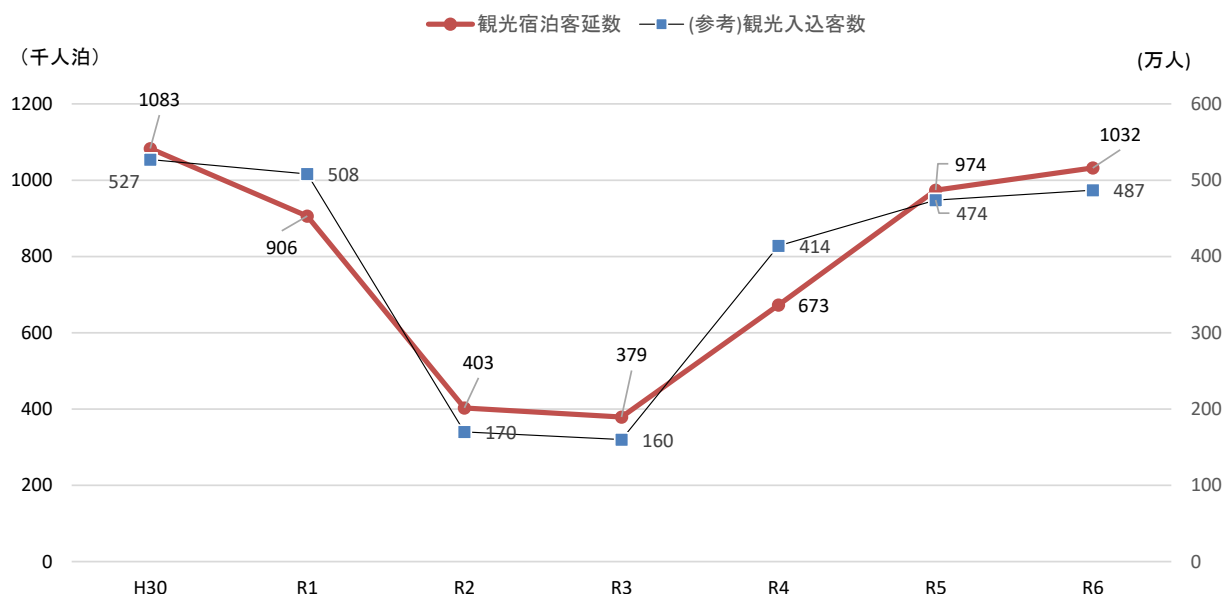
指 標	数値目標
34歳以下の社会減(転入者数－転出者数)の減少 (H30年10月～R1年9月実績:▲987人)	▲332人(H27年実績)より社会減を減少



令和6年の34歳以下の社会減については、▲777人となっており、令和2年に大幅に縮小したものの、その後再び拡大し、若年層の転出超過の傾向は変わらず続いている状況である。進学や就職などのタイミングで、札幌を始めとする大都市圏に多数が転出していることが考えられる。

○基本目標2-2

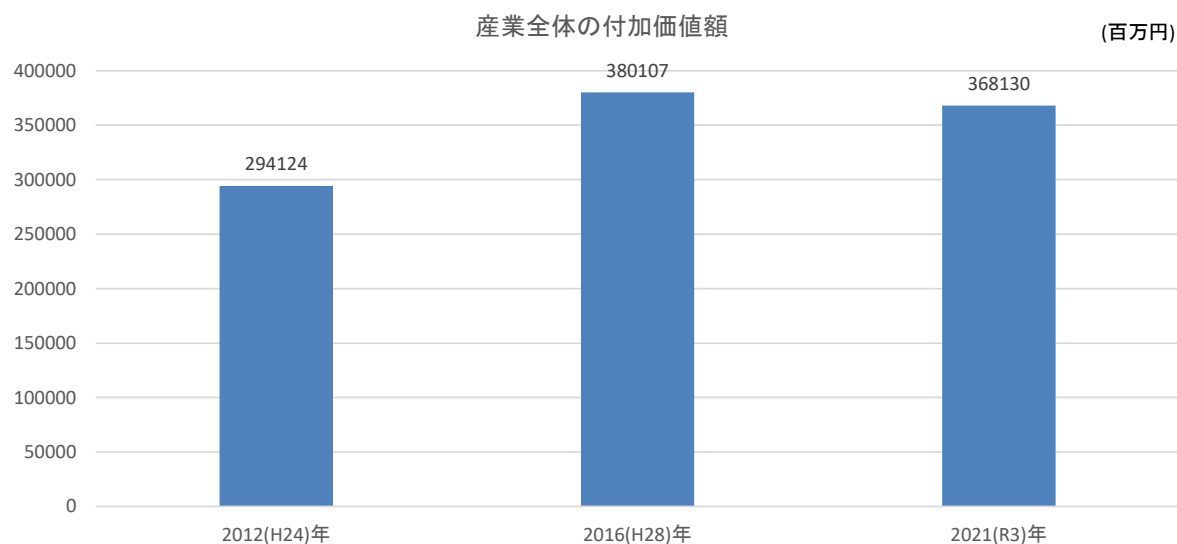
指 標	数値目標
観光宿泊客延数(H30年度:1,083千人泊)	1,300千人泊



令和6年度の観光宿泊客延数は、前年より約58千人泊増加し約1,032千人泊となっており、目標値には届かないものの、観光入込客数同様コロナ禍を経て順調に回復してきている。

○基本目標3

指 標	数値目標
産業全体の付加価値額【RESAS】(H28年度:380,107百万円)	471,332百万円



現状確認できる最新値である2021(R3)年については、H28年度の現状値と比較して約3%減少し、368,130百万円となっており、目標値に及ばない結果となった。